

市町村名	伊江村						
平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1－①	伊江村ハブ対策事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（6）－ア			
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成27～32年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域特性に応じた生活基盤の整備		
事業内容	本村に生息するハブによる健康被害から、村民及び観光客を守るため、生息地となっている観光地や海岸沿の清掃を行いハブが住処を作りにくい環境を整備する。また、捕獲器を設置しハブの捕獲駆除に取り組む。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,022	5,000			
		(b) 予算現額	2,980	4,330			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,042	▲ 670			
		(d) 繰越額	－	－			
		A. 計 (b+d)	2,980	4,330			
	B. 執行済額		2,980	4,330			
	うち交付金充当額		2,384	3,464			
	次年度繰越額		－	－			
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		予算の範囲内で適正な執行を行った。増減額の▲670千円については入札残によるものである。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	ハブ生息地の清掃を行う	目 標	（ 生息地清掃 ）	（ 生息地清掃 ）	（ ）	（ ）	
		実 績	清掃完了	清掃完了			
	捕獲器を設置する	目 標	（ 捕獲器設置 ）	（ 捕獲器設置 ）			
		実 績	設置完了	設置完了			
	達成状況説明	・捕獲器設置や巡回パトロール等を行うことによりハブの捕獲ができた。 ・ハブ生息地の清掃を行うことにより、観光地の安全対策に繋がった。					
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（ 年度）
	ハブ咬症による被害件数を0件とする。	目 標	（ ）	（ 0件 ）	（ 0件 ）	（ ）	（ ）
		実 績		0件	0件		
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績					
	進捗状況説明	・捕獲器の設置や巡回パトロールの実施により平成28年度におけるハブ咬症被害件数0件を達成する事ができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・ハブの咬症による被害件数は、27～28年度にかけて0件を達成しているが、ハブの捕獲駆除件数について増加しているのが現状であることから、今後もハブの生息地における清掃及び捕獲器の設置を行う必要がある。 ・捕獲器設置において受託者との協議にて設置を主に行っているが、村民や各区長との情報も参考にして捕獲器の設置を検討する必要がある。	・受託者との協議のうえ捕獲器の設置を主に行っているが、村民の目撃情報や各区長との連携を図り捕獲器の設置を行うことにより捕獲確率の向上を図る。 ・ハブの生息地の清掃や捕獲以外に広報誌によるハブの咬症注意やハブ注意看板の設置により村民及び観光客への注意を促しハブの咬症被害を未然に防ぐ。
今後の取り組み方針		
・引続きハブ対策事業を実施することで、ハブ咬症被害件数0件を目指す。 ・受託者との協議や村民の目撃情報や各区長との連携を図りハブ捕獲器の設置箇所の検討を行う。 ・村内広報誌にてハブの注意喚起や目撃情報の募集、情報をもとに清掃や捕獲器の設置、ハブ注意看板の設置、職員による見回りの実施を行うことにより村民及び観光客等へのハブ被害を防ぎ安全・安心な環境整備を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>4,330</td><td>4,330</td><td>3,464</td><td>866</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 4,330千円 委託料 4,330千円 伊江島緑化 (清掃業務) 3,844千円 伊江島緑化 (捕獲業務) 486千円 伊江村ハブ対策事業 (清掃・捕獲)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,330	4,330	3,464	866	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,330	4,330	3,464	866	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○選定方法として清掃業務は村の格付土木B(造園工)を抽出し入札を行った。捕獲業務において清掃業務と同様の業者を選定し見積依頼による最低見積価格を採用した。当該受注業者は専門的な知識及びハブの住処等を熟知していることから、契約は妥当であると考える。 ○予算規模については、設計書をもとに予定価格を設定し執行していることから妥当であると考える。 ○業務後の検査において、書面及び現場確認検査を実施し、適正に事業を執行していると判断されたことから、事業目的に即した費目及び使途であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村						
平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2－①	明るい村づくり事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ			
				観光客の受入体制の整備			
担当部課名	建設課	事業実施 （予定）年度	平成27～29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－（1）		
事業内容	集落内の防犯灯をCO2排出の少ないLED照明灯に取替え、更に新規設置し夜間における、安心・安全な地域の環境整備を推進することにより、村民及び観光客等の防犯抑止効果として更には地球温暖化対策にも寄与する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	9,000	16,000			
		(b) 予算現額	7,560	15,336			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,440	▲ 664			
		(d) 繰越額	－	－			
		A. 計 (b+d)	7,560	15,336			
	B. 執行済額		7560	15,336			
	うち交付金充当額		6048	12,268			
	次年度繰越額		－	－			
	執行率（％）(B/A)		100%	100%			
予算の状況の説明		当初予算額では16,000(千円)(工事請負費)であったが、▲664(千円)については入札残によるものである。事業内容は計画通り執行した。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	既存街灯をLED照明灯に転換・新規設置を行う	目 標	（ LED化・新規設置 ）	（ LED化・新規設置 ）	（ ）	（ ）	
		実 績	完了	完了			
	照明灯設置前後の照度等の調査を行う	目 標	（ 照度調査 ）	（ 照度調査 ）	（ ）	（ ）	
		実 績	照度調査完了	照度調査完了			
達成 状況 説明	・平成28年度計画のLED照明灯200基を転換・新規設置した。 ・既存街灯の照度等の調査を当課職員で実施した。 ・転換及び新規設置箇所の配置計画図を作成した。						
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値 （ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （ 年度）
	村内の通学路、住宅密集地、見通しの悪い道路等の照度を高める。（3lx以上）	目 標	（ ）	（ 3lx以上 ）	（ 3lx以上 ）	（ ）	（ ）
		実 績		3lx以上	最低：5.1lx 最高：15.5lx 平均：9.81lx		
	進 捗 状 況 説明	・LED照明灯200基の転換・新規設置を完了したことで、設置した場所が3lx以上の照度を確保するができた。 ・平成29年度においては、計画しているLED照明灯150基の転換設置を行う。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・地球温暖化対策及びCO2排出削減の取組みに向け本事業を実施しているが、住民への周知及び啓発活動の方法について更に検証を必要とする。 ・既存照明の老朽化により、取替箇所が増加しているので、地域住民や自治会等連携して早期取り替えの選定が必要である。	・今後は伊江村地球温暖化実行計画等を作成中であり、地球温暖化対策及びCO2排出削減を盛り込み、更なる啓蒙に取り組んでいく。 ・配置計画図の見直しを図った結果、既存正面の取換えが前年度より早期に着手できたので、継続して早期執行を行う。 ・継続してLED照明灯へ移行を実施し、更に防犯・交通安全策、CO2排出削減及び地球温暖化対策に繋げるように遂行する。
今後の取り組み方針		
・引き続きLED照明灯へ移行することで、CO2排出削減、地球温暖化対策及び観光、防犯対策等を図る。 ・本村の第4次総合計画及びスマートアイランド構想等を踏まえ、地球温暖化対策及びCO2削減の推進を図る。 ・観光受け入れ態勢の充実を図るうえで、民家体験拍（民泊事業）者や地域住民からヒアリングを実施することで、明るい村づくりを推進する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>15,336</td><td>15,336</td><td>12,268</td><td>3,068</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 15,336千円 工事請負費 15,336千円 山城電設 15,336千円 伊江村防犯灯整備工事 （明るい村づくり事業）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	15,336	15,336	12,268	3,068	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
15,336	15,336	12,268	3,068	0										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負業者は、指名競争入札で実績等を勘案し選定しており妥当であったと考えられる。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、設計書及び見積書をもとに予定価格を設定し執行しており妥当であると考えられる。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○工事後の検査において、書面及び現場確認検査を実施し、適正に事業執行していると判断されたことから、事業目的に即した費目及び使途であったと考えられる。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村						
平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3－①	伊江村自動車航送コスト負担軽減事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（11）－ア			
担当部課名	公営企業課	事業実施（予定）年度	平成26～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	交通・生活コストの低減		
事業内容	離島である本村は、沖縄本島との交通機関は船に頼らざるを得ず、移動の大きな障害となっている。このため、自動車航送コスト負担軽減の助成を行うことで、定住条件を改善し、「住みよい村づくり」の振興を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	12,960	12,000	12,960		
		(b) 予算現額	12,922	13,702	14,220		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 38	1,702	1,260		
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	12,922	13,702	14,220		
	B. 執行済額		12,922	13,702	14,074		
	うち交付金充当額		10,338	10,961	11,215		
	次年度繰越額						
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	99.0%		
予算の状況の説明		・村民が沖縄本島へ移動する際の自動車航送コストの負担を図るべく、1台当たり810円の補助を実施した。 ・また、H28. 4～H29. 1月までの補助実績が当初見込みと比較し、各月平均4％増加で推移していたため、1,260千円増額を行った。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	車両航送に対する運転手1名分の運賃補助	目 標	（ 支援実施 ）	（ 支援実施 ）	（ 支援実施 ）	（ ）	
		実 績	支援実施	支援実施	支援実施		
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績					
達成状況説明	車両航送1台につき、運転手1名相当分として810円の割引を実施した。 平成26年、27年、28年と3年連続で航送実績が伸び続けており、自動車航送コスト負担を軽減する事によって、沖縄本島と比較し割高な移動コストが低減され、定住条件の改善や住みよい村づくりの振興に資することが出来た。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
	車両航送に対する補助台数 年間1. 6万台	目 標	（ 16,000台 ）	（ 16,000台 ）	（ 16,000台 ）	（ 16,000台 ）	（ ）
		実 績		15,954台	16,916台	17,308台	
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績					
	進捗状況説明	当初見込んだ目標台数を僅かだが上回る実績となった。村内住民の交通手段である船舶にて車両航送負担軽減を行って定期的な医療機関等への通院や教育関連の大会など気兼ねなく本島との行き来ができるようになり、村内住民の生活コスト負担軽減に繋がったと考える。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・事業の実施により、土日に沖縄本島で行われる競技会や発表会時には利用者が増えたことにより乗船できない車両が発生するケースが見受けられる。 ・事業の実施により、土日、祝日等休日になると、利用者が切符購入窓口が増え混雑が発生する状況が見受けられる。	・沖縄本島でのイベントが開催される際には、利用者が増加し乗船できない車両が発生している状況を周知するなど、利用者が計画的に島外への移動ができるよう取り組みを検討する。 ・航送券購入時の手続きの簡素化・合理化による混雑は解消に向かっているが、電子機器の定期的な保守、停電等への対応をさらに検討する。
今後の取り組み方針		
・割引申し込みカードの発行や更新等、利用者数低下につながらないよう定期的に村広報などで周知を徹底する。 ・混雑が予想される日時については、予めスケジュール等においてシフト調整を充分に管理することによって、事前に窓口対応者を増員する等して混雑の解消につなげる。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>14,019</td><td>14,019</td><td>11,215</td><td>2,804</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 14,019千円 補助金 14,019千円 公営企業課 14,019千円 〔 補助金 車両航送に対する補助 〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	14,019	14,019	11,215	2,804	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
14,019	14,019	11,215	2,804	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は唯一の航路事業者を選定しており、妥当であったと考えている。 ○執行率が約99%となっており、補助対象者全ての事業を執行する事ができ、適正であった。 ○費目・使途については予定通りであり、実績報告・検査も実施した。目的に即し適正なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-①	優良繁殖雌牛導入事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア				
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成26～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備			
事業内容	子牛の生産性向上並びに畜産業の新規担い手や後継者育成のため、県内・外の家畜セリ市場において優良繁殖素牛(雌)を購入した伊江村和牛改良組合員に対して、補助金を交付し、経営の安定化及び優良遺伝繁殖雌牛の生産を図る。							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	30,000	30,000	30,000			
		(b)予算現額	30,000	30,000	30,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0	0			
		(d)繰越額	—	—	—			
		A. 計(b+d)	30,000	30,000	30,000			
	B. 執行済額		30,000	30,000	30,000			
	うち交付金充当額		24,000	24,000	24,000			
	次年度繰越額		—	—	—			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初予算にて30,000千円(100頭導入)を計上し、その実績として30,000千円(100頭導入)の執行額となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	・優良繁殖素牛(雌)の購買導入支援		目 標	(購買導入支援)	(購買導入支援)	(購買導入支援)	()	
			実 績	支援の実施	支援の実施	支援の実施		
達成状況説明	伊江村肉用牛繁殖農家経営の更なる向上の取組に基づき、県内・外の家畜セリ市場において優良繁殖素牛(雌)を購入し導入した伊江村和牛改良組合員に対して、補助金を交付し経営の安定化及び優良遺伝繁殖雌牛の生産を図った。これにより今後導入した優良繁殖雌牛が子牛を生産し、本村の素牛生産地としての更なる躍進と優良血統牛群の形成を期待できる。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)			基準値(26年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	・優良繁殖素牛(雌)導入 100頭 の達成		目 標	()	(導入100頭)	(導入100頭)	(導入100頭)	()
			実 績		導入106頭	導入103頭	導入100頭	
			目 標	()	()	()	()	()
			実 績					
	進捗状況説明	当初の導入計画通り、県内外から多数の優良繁殖雌牛が導入された。今後、導入された雌牛への積極的な繁殖治療の推進と市場ニーズに沿った交配計画等を打ち出し優良繁殖雌牛群の形成を図っていく。また、更なる優良血統への切替を推進し今後も引続き導入を実施していく。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	事業実施にあたり、近年の繁殖基牛価格の高騰により受益者の負担が上昇傾向にあり、今後において補助額の見直等の検討を行う必要が生じている。	近年の繁殖基牛価格の高騰を反映し、平成29年度事業においては1頭当りの補助額を引き上げ、更なる畜産振興に努めていく。
今後の取り組み方針		
導入された繁殖雌牛から生産された優良子牛(雌)の積極的な地域保留を推進し、市場にて購買される育成牛の発育性の斉一化や地域ブランドの確立を図る。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>90,817</td><td>30,000</td><td>24,000</td><td>6,000</td><td>60,817</td></tr></table> 伊江村 30,000千円 優良繁殖雌牛導入事業補助金 30,000千円 伊江村和牛改良組合員 30,000千円 事業費：30,000千円 交付金：24,000千円 市町村：6,000千円 ※受益者負担：60,817千円 (交付対象外経費) 優良繁殖雌牛導入事業補助金 受益者数：70名 導入頭数：100頭 優良繁殖雌牛導入一頭導入につき素牛購買価格(セリ価格)の1/2上限300千円の購買補助金。					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	90,817	30,000	24,000	6,000	60,817
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
90,817	30,000	24,000	6,000	60,817										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は、本事業の交付対象要件を満たす唯一の団体であり、選定は妥当だと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○畜産農家の高齢化による廃業及び離農が多くみられ、年々減少していく繁殖雌牛の維持並びに増頭の為に本事業を推進しており、事業実績及び成果目標指数の達成状況を含め、適正な予算規模であったと考えている。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○全国的な素牛数の減少により、素牛購買価格が高騰しており他の一括交付金事業と比較しても受益農家の負担率が大きい。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、補助金交付要綱に基づき補助額の確定時において支出等に関する要綱により確認した結果、適正であった。											

市町村名	伊江村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	乳用牛繁殖雌牛更新事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア			
担当部課名	農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成26～28年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備		
事業内容	伊江村酪農経営の安定化及び村畜産業における乳生産量の向上を図るため、2産(4歳)以上した母牛を淘汰し地域保留や県外から導入した優良繁殖雌牛(素牛)に対して、補助金を交付し、安定した生乳出荷を行う事で、信頼性のある産地づくりを図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	4,000	4,000	4,000		
		(b)予算現額	3,200	1,800	1,200		
		(c)増減額(b-a)	▲ 800	▲ 2,200	▲ 2,800		
		(d)繰越額	—	—	—		
		A. 計(b+d)	3,200	1,800	1,200		
	B. 執行済額		3,200	1,800	1,200		
	うち交付金充当額		2,560	1,440	960		
	次年度繰越額		—	—	—		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		当初、20頭の更新を予定していたが14頭分の予算2,800千円を減額した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	乳用繁殖母牛の更新に対する支援	目 標	(20頭)	(20頭)	(20頭)	()	
		実 績	16頭	9頭	6頭		
達成 状況 説明	当初更新予定の20頭のうち2戸農家で繁殖素牛の導入及び自家生産保留牛の該当が無く、全体で6頭の更新となった。14頭の更新が減となったのは県内外における素牛価格の高騰と自家生産において、流産、死産が重なったことが要因とされる。結果として、三年計画に対して更新率が50%に留まり、事業期間内の目標値である更新率80%には及ばなかった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (26年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)
	乳用繁殖母牛の更新 20頭 の達成	目 標	()	(20頭)	(20頭)	(20頭)	()
		実 績		16頭	9頭	6頭	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進 捗 状 況 説 明	廃用牛の淘汰、優良若雌牛の導入により母牛の更新を図り、子牛繁殖生産率が向上し廃用牛と育成牛の回転率が上昇することで、泌乳量増加や乳質改善が見られ、安定した生乳の供給が見込まれる。その一方で、繁殖素牛の市場価格高騰や、生産子牛の疾病、死産等が散見され、市場導入数及び自家保留数の減少が更新目標数の未達成となる要因になった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	全県的な繁殖素牛不足による購買平均価格の高騰により、素牛の導入が厳しくなっている一方で、村内で生産された素牛(子牛)の疾病、死産等が散見され、市場導入数及び自家保留数の減少が更新目標数の未達成となる要因になった。	子牛の疾病リスクの軽減や死亡率の減少に向けた飼養衛生管理の改善を図り、乳用牛総数の増頭を図る。また、導入又は保留した若齢雌牛への雌雄判別精液等の利用による高生産性技術の促進を図りながら、村内の乳用牛総数の増加を促す。
今後の取り組み方針		
・事業活用により、導入又は保留した若齢雌牛への積極的なホルスタイン種精液の利活用推進。 ・雌雄判別精液の利用による高生産性技術の確立。 ・子牛の疾病リスクの軽減や死亡率の減少に向けた飼養衛生管理の改善を図り、乳用牛総数の増頭を図っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>2,700</td><td>1,200</td><td>960</td><td>240</td><td>1,500</td></tr></table> 伊江村 1,200千円 乳用牛繁殖雌牛更新事業補助金 1,200千円 酪農家2戸 1,200千円 事業費:1,200千円 交付金: 960千円 乳用高齢牛の更新一頭につき、一律200千円の助成金交付。(導入経費の1/2助成)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,700	1,200	960	240	1,500
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,700	1,200	960	240	1,500										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は、本事業の交付対象要件を満たす唯一の団体であり、選定は妥当であると考えている。 ○高齢牛の淘汰促進を促し生産性の向上や乳質改善に努めており助成額は妥当だと考えている。 ○費目・使途については、素牛生産並びに乳生産を図るまでの経費を考慮し一律助成をしており適正であると考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村										
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	5-①		村花・世界のゆり植栽推進業務				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－3－(2)－ウ		
									観光客の受入体制の整備		
担当部課名	商工観光課			事業実施 (予定)年度	平成24～32年度			沖縄振興基本方針 該当箇所		Ⅲ-1-(1)	
事業内容	村花であるテッポウユリと世界のゆり球根を植栽し、花の島づくりを推進する。										
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）										
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算 の 状 況				24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
			(a)当初予算額		2,100	3,131	3,000	3,000	3,000		
			(b)予算現額		899	2,996	2,980	2,938	2,972		
			(c)増減額(b-a)		▲ 1,201	▲ 135	▲ 20	▲ 62	▲ 28		
			(d)繰越額		—	—	—	—	—		
			A. 計(b+d)		899	2,996	2,980	2,938	2,972		
			B. 執行済額		899	2,996	2980	2938	2972		
			うち交付金充当額		719	2,396	2384	2350	2377		
			次年度繰越額		—	—	—	—	—		
			執行率(％)(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
		予算の状況の説明		当初予定を下回る金額で契約したことで28千円減額となったが、予定した事業内容は全て執行した。							
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)				達成状況						
					25年度	26年度	27年度	28年度			
	テッポウユリ球根 50,000球				目 標	ゆりの球根購入 (60,000球)	ゆりの球根購入 (70,000球)	ゆりの球根購 入70,000球)	ゆりの球根購 入50,000球)		
					実 績	ゆりの球根購入 70,000球	ゆりの球根購入70,000 球	ゆりの球根購入 70,000球	ゆりの球根購入 50,500球		
	世界のゆり球根 20,000球				目 標	()	()	()	ゆりの球根購 入20,000球)		
					実 績				ゆりの球根購入 20,000球		
	達成 状況 説明	昨年に引き続きテッポウユリの球根50,500球、世界のゆりの球根20,000球を購入しゆり祭り会場であるリリーフィールド公園に植栽した。 花の咲き具合等も好評で祭りイベントの向上を図ることができた。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)					基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)	
	第22回伊江島ゆり祭り来場者数 30,000人 (H27 31,000人)				目 標	()	(34,000人)	(33,000人)	(30,000人)	()	
					実 績		31,000人	30,000人	30,000人		
					目 標	()	()	()	()	()	
					実 績						
	進捗 状況 説明	球根の更新を行ったことにより花の咲き具合もよく、来場者がもっとも多くなるゴールデンウィーク中に満開の花を咲かすことができた。世界のゆり90 品種も色とりどりの花を咲かせ来場者に好評で花の島づくりを推進することが出来た。雨の日が多く、来場者数目標に届かなかったが、昨年同様の 来場者数を保てた。目標達成のために、今後も新たな目玉となる品種を選定していく必要がある。									

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・球根に疫病が広がり、全体的に小さいサイズの球根の植え付け数が多くなってしまった。花の輪数が少なく、丈も低いためボリュームが出なかった。今後も新しい球根を更新し、球根の管理を徹底していく必要がある。 ・畑によって咲き具合にばらつきがあるため、畑毎に植え付けの時期、球根のサイズを調整しばらつきを抑える必要がある。 ・来場者数目標を達成するために今回世界のゆり75品種から90品種へ増やした。今後も、新たに植栽できる品種が無いか検討し、他の地域では見られないような品種を導入することで祭りの目玉として観光客の誘客に努める必要がある。	・球根の管理、選別を徹底的に行い、優良品種育成を図る。 ・今年度は小さめの球根が多かったため、購入した球根の育成を徹底し、球根サイズの一定化、畑毎の植え付け調整をはかり、咲き具合のばらつきを抑える。 ・新たな目玉になるような品種を導入することで、県内外へアピールし観光客誘客の向上に努める。次年度は90品種から100品種へ増やし誘客に努めることや、多彩な品種が咲き誇る状況を周知広報し、イベントの魅力度向上に努めていく。
今後の取り組み方針		
今後、新たな目玉になるような品種を導入することで、県内外へアピールし観光客誘客の向上に努め、また一定サイズのテッポウユリの球根を導入することで会場全体のボリュームアップを図りイベントの見直しや県外への周知広報を増やすなど来場者数目標の33,000人を達成できるよう努める。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>2,972</td><td>2,972</td><td>2,377</td><td>595</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 2,972千円 原材料費 2,972千円 新緑園 園芸センター 2,972千円 球根購入：テッポウユリ50,500球 ：世界のゆり20,000球					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,972	2,972	2,377	595	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,972	2,972	2,377	595	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○選定した業者は、7万球もの多量の良質な球根を短期間に調達できる唯一の業者であり、選定は妥当であると考えている。 ○見積もりを徴収し決定したので、予算規模、事業内容とも適正である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののかなどについて、金額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		伊江村														
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】																
事業番号・事業名		5-②観光地クリーン事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章－3－(2)－ウ										
担当部課名		商工観光課		事業実施(予定)年度		平成27～32年度										
				沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ－1－(1)										
事業内容		観光地の環境美化及び保全をし、観光地の景観形成と観光客の受け入れ態勢を強化する。														
実施方法		■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）														
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）				27年度		28年度		29年度		30年度		31年度				
		予算の状況	(a)当初予算額	18,000		18,000										
			(b)予算現額	20,147		21,466										
			(c)増減額(b-a)	2,147		3,466										
			(d)繰越額	－		－										
			A. 計(b+d)	20,147		21,466										
		B. 執行済額		20,147		21,466										
		うち交付金充当額		16,117		17,173										
		次年度繰越額		－		－										
		執行率(％)(B/A)		100.0%		100.0%										
予算の状況の説明		繁忙期等に当初予定を上回る人数で作業に従事したため、3,466千円の増額となったが事業内容をふまえ観光客の受入体制の整備を行えたため、適正な執行に努めることができた。														
活動目標（指標）及び達成状況		H28活動目標（指標）			達成状況											
					27年度		28年度		29年度		30年度					
		観光地環境美化保全作業員14名			目 標	(作業員14名)		(作業員14名)								
					実 績	作業員18名		作業員16名								
					目 標	()										
					実 績											
達成状況説明		・事業年度内で退職した作業人や新規採用した作業人もいるため、年度内で賃金を支払った者は延べ16名となった。 ・観光地の継続的な環境美化及び保全に努め、快適な観光客の受け入れができた。 ・台風襲来前に危険木(枯死木等)の撤去や大木の枝打ちなどをすることで、台風の被害を少なくすることができた。														
成果目標（指標）及び進捗状況		H27成果目標（指標）					基準値（年度）		27年度		28年度		29年度		目標値（年度）	
		観光地美化満足度70%以上			目 標	()		(H27美ら島満足度)		(H28美ら島満足度)		()		()		
					実 績			H27美ら島満足度70%		H28美ら島満足度70%						
					目 標	()		()		()		()		()		
					実 績											
		進捗状況説明		・観光地の継続的な環境美化及び保全に努め、快適な観光客の受け入れができた。また、台風襲来前に危険木を撤去することで、台風の被害を少なくすることができた。 ・各観光地、ローテーションで作業したが、敷地が広い観光地に時間がかかり偏りが見られた月もあるため、グループで作業場所を分ける等工夫し、作業時間の偏りや草の伸びすぎが無いよう努める。												

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光地の継続的な環境美化及び保全に努め、快適な観光客の受け入れができたが雑草等の成長時期に追いつかず、繁茂した観光地もあったため、作業用機械の現場振り分け等を見直す必要がある。 ・台風が襲来すると危険木（枯死木等）が暴風により倒木し、交通の妨げや電気系統の切断など災害発生が想定されることから事前の対策が必要である。	・観光地の継続的な環境美化及び保全に努め、快適な観光客の受け入れができたが雑草等の成長時期に追いつかず、繁茂した観光地もあったため、作業用機械の現場振り分け等を見直し、常に観光地の環境美化を図る。 ・台風襲来前に危険木（枯死木等）を撤去することで、台風の被害を少なくすることができたが完全な危険木（枯死木等）の撤去には至っておらず、引き続き撤去作業、植栽を行い、緑化づくりによる景観形成を行っていく。
今後の取り組み方針		
・今後も年々増加傾向にある観光客が、快適な伊江島の旅を楽しむためにも安全安心な観光地づくり及び美ら島づくりに努め、アンケートの結果を作業現場の優先順位や作業ローテーション等に反映し、満足度を達成できるよう努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																
		<table><tr><th rowspan="2">総事業費</th><th rowspan="2">交付対象 事業費</th><th colspan="2">交付金 充当額</th><th rowspan="2">交付対象 外経費</th></tr><tr><th>市町村 負担金</th><th></th></tr><tr><td>21,466</td><td>21,466</td><td>17,172</td><td>4,294</td><td>0</td></tr></table>			総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額		交付対象 外経費	市町村 負担金		21,466	21,466	17,172	4,294	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額		交付対象 外経費												
		市町村 負担金														
21,466	21,466	17,172	4,294	0												
伊江村 21,466千円 賃金 21,466千円 村雇用作業人 21,466千円 観光地清掃作業人:16人																
資金 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明												
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○伊江村賃金職員雇用管理規則に基づき雇用している作業人であり、妥当であったと考えている。 ○当初予定を上回る人数となり予算規模は上回ったが、事業内容をふまえた増額であり、適正である。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。												
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。														
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。														
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。														

市町村名		伊江村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		5-③	観光客誘客環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ		
担当部課名		商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26年度～31年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容		伊江港周辺や青少年旅行村、湧出展望休憩施設、乗馬体験交流施設、ミースィ公園などの観光施設の機能拡充を図るための施設整備を行い、観光客の受け入れ態勢を強化する。							
実施方法		□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）				26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
		予算の状況	(a)当初予算額	135,400	109,047	61,700			
			(b)予算現額	145,070	122,105	201,937			
			(c)増減額(b-a)	9,670	13,058	140,237			
			(d)繰越額	－	－	－			
			A. 計(b+d)	145,070	122,105	201,937			
		B. 執行済額		145,070	122,105	201937			
		うち交付金充当額		114,786	97,683	159859			
		次年度繰越額		－	－	－			
		執行率(％)(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		増額140,237千円発生しているが、主な要因として当初計画に入っていない、ミースィ公園整備及び湧出展望台休憩施設整備に追加工事が加わったことが主な要因である。							
活動目標（指標）及び達成状況		H28活動目標（指標）		達成状況					
				27年度	28年度	29年度	30年度		
		伊江港トイレ整備（実施設計・建築）	目 標	（ ）	（実施設計及び建築）				
			実 績		実施設計 建築完了				
		青少年旅行村施設整備（テラス・更衣室）	目 標	（ ）	（施設整備）				
			実 績		施設整備完了				
		湧出展望台休憩施設整備（建築）	目 標	（ 実施設計 ）	（整備工事）				
			実 績	実施設計完了	整備完了				
		乗馬体験交流施設整備（実施設計）	目 標	（ ）	（実施設計）				
			実 績		実施設計完了				
ミースィ公園遊具整備事業（実施設計）	目 標	（ 実施設計 ）	（実施設計及び第1期工事）						
ミースィ公園整備工事（第1期工事）	実 績	実施設計完了	設計及び第1期工事完了						
達成状況説明	予定していた設計・整備工事においてすべて年度内に事業を実施することができた。								
成果目標（指標）及び進捗状況		H28成果目標（指標）			基準値（ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（ 年度）
		伊江港トイレ整備実施設計・建築完了	目 標	（ ）	（ ）	（ 実施設計及び整備 ）		（ ）	
			実 績			実施設計 建築完了			
		青少年旅行村施設整備完了	目 標	（ ）	（ ）	（ 整備完了 ）		（ ）	
			実 績			整備完了			
		湧出展望台休憩施設整備建築完了	目 標	（ ）	（ ）	（ 建築完了 ）		（ ）	
			実 績			建築完了			
		乗馬体験交流施設整備実施設計完了	目 標	（ ）	（ 実施設計 ）	（ 実施設計完了 ）		（ ）	
			実 績		実施設計完了	実施設計完了			
		ミースィ公園遊具整備実施設計完了 ミースィ公園整備工事完了（第1期工事）	目 標	（ ）	（ 実施設計 ）	（ 実施設計及び第1期工事 ）		（ ）	
実 績			実施設計完了	設計及び第1期工事完了					
進捗状況説明	・村内の観光施設を整備したことにより、以前よりも観光客又は修学旅行といった各種団体客が安心・安全・快適に村内を観光してもらう受入体制を強化することができた。								

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・伊江村には数多くの観光誘客施設があり、年間通して多くの観光客が訪れるが、ここ数年民泊事業の観光入客数が伸び悩んでいる。理由としては沖縄県内のバス運賃の値上げや他市町村の修学旅行民泊が多くなってきていることから、今まで来ていた民泊の修学旅行団体が沖縄本島に流れている傾向がある。そのほか一般観光客の減少も懸念されていることから、伊江村として観光施設の機能拡充を図ることにより、観光地としての魅力度向上を図り、よりよい観光客受入体制及び満足度向上につなげたい。	・平成26年度から観光客誘客整備事業は開始しており、すでに整備を行った施設については伊江村観光振興推進協議会や伊江村ホームページを通して、村内及び県内外広くPRしていき、観光客受入体制及び満足度向上につなげたい。また、ここ数年伸び悩んでいる民泊事業での観光入客数については、伊江村役場、伊江村観光協会、伊江漁協等で行く県内修学旅行誘致キャンペーンや平成27年度から開催している旅行会社を招致して行う民泊意見交換会等で整備を行った施設のPRをし、民泊事業での観光入客数の増加を図りたい。今後も伊江村観光関係団体及び地域と連携し、観光施設の拡充を図り、伊江村の観光振興に繋げていきたい。
今後の取り組み方針		
今回平成26年・27年に引き続き観光施設を整備したが、そのほかにも年数が経ち、機能拡充及び整備の必要な施設があることから、今後も伊江村観光関係団体（観光協会、商工会、伊江漁協、民泊受入業者）や地域と連携し、観光施設の改善及び機能強化等を行い、更なる観光誘客施設の向上を図りたい。 また、伊江村では年間を通して、イベントが少なく、民泊事業のオフシーズンである7・8月の観光入客数が伸び悩んでいることから、今後は、沖縄本島内との差別化した独自体験メニューや夏時期のイベントを企画し、年間を通して伊江村観光入客数の増加を図りたい。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）																
<table><tr><td rowspan="2">総事業費</td><td rowspan="2">交付対象 事業費</td><td colspan="2">交付金 充当額</td><td rowspan="2">交付対象 外経費</td></tr><tr><td>市町村 負担金</td><td></td></tr><tr><td>201,937</td><td>201,937</td><td>159,859</td><td>42,078</td><td></td></tr></table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額		交付対象 外経費	市町村 負担金		201,937	201,937	159,859	42,078	
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額		交付対象 外経費												
		市町村 負担金														
201,937	201,937	159,859	42,078													
伊江村 201,937千円	委託料 14,903千円	(株)シビルエンジニアリング 3,207千円 （乗馬体験交流施設整備実施設計）														
		(株)アジア技研 6,113千円 （ミースイ公園整備工事実施設計 3,024千円） （ミースイ公園整備工事現場技術業務 3,089千円）														
		(一財)経済調査沖縄支部 130千円 （ミースイ公園整備遊具物価調査委託業務）														
		きた建築設計 5,454千円 （伊江港周辺トイレ整備工事実施設計 2,052千円） （伊江港周辺トイレ整備工事監理業務 950千円） （青少年旅行村施設整備工事監理業務 1,836千円） （湧出展望休憩施設整備工事監理業務 615千円）														
	工事請負費 187,034千円	(有)玉城建設 32,832千円 （青少年旅行村施設整備工事(建築)）														
		(株)南西空調設備 9,234千円 （青少年旅行村施設整備工事(設備) 2,214千円） （伊江港周辺トイレ整備工事(設備) 7,020千円）														
		(有)宮城組 17,885千円 （湧出展望台休憩施設整備工事）														
		(有)丸山組 97,945千円 （ミースイ公園整備工事）														
		島幸建設(株) 29,138千円 （伊江港周辺トイレ施設整備工事(建築) 24,084千円） （ミースイ公園整備工事(2工区) 5,054千円）														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明													
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定は入札より選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、設計書及び見積書をもとに予定価格を設定し執行しており妥当であると考えられる。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。													
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。														
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。														
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。														

市町村名		伊江村								
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名		6－①		確かな学力を育む学習支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－(2)－ア			
							教育機会の拡充			
担当部課名		伊江村教育委員会教育行政課		事業実施 (予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－3－(1)		
事業内容		小、中学校への免許外教科担当者の解消と専科教諭の配置、児童生徒1人1人に「確かな学力」を身につけさせるための学習支援員の配置、更には発達障がいなど様々な障がいがある児童生徒に対し特別支援教育支援員などの配置を行い、自立し生きていくための土台づくりを行う。								
実施方法		■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）								
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
		予算 の 状 況		(a)当初予算額		14,857	19,440	19,440	20,304	
				(b)予算現額		13,345	17,351	20,536	19,590	
				(c)増減額(b-a)		▲ 1,512	▲ 2,089	1,096	▲ 714	
				(d)繰越額		0	0	0	0	
				A. 計(b+d)		13,345	17,351	20,536	19,590	
		B. 執行済額		13,345	17,351	20,536	19,590			
		うち交付金充当額		10,300	13,881	16,429	15,672			
		次年度繰越額		0	0	0	0			
		執行率(％)(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		12名(小学校8名、中学校4名)の支援員を確保することができたが、年度当初において支援員12名を確保することができなかったため、当初より減額となった。								
活動目標 (指標) 及び達成状況		H28活動目標(指標)			達成状況					
					25年度	26年度	27年度	28年度		
		小学校2校 8名			目 標	2校8名	2校8名	2校8名	(2校8名)	
					実 績	2校7名	2校7名	2校8名	2校8名	
		中学校1校 4名			目 標	1校4名	1校4名	1校4名	(1校4名)	
					実 績	1校4名	1校4名	1校4名	1校4名	
達成状況説明		当初の目標通り3学校へ12人の学習支援員を配置することができた。 (西小4名、伊江小4名、伊江中4名)								
成果目標 (指標) 及び進捗状況		H28成果目標(指標)				基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (33年度)
		県学力到達度調査において、正答率30%未満の児童生徒の割合を小学校で10%以下、中学校で各教科30%以下に減らし、村全体の学力向上を図る。			目 標	()	(正答率30%未満 小学校10%以下 中学校各教科30%以下)	(正答率30%未満 小学校10%以下 中学校各教科30%以下)	(正答率30%未満 小学校10%以下 中学校各教科30%以下)	(正答率30%未満 小学校10%以下 中学校各教科30%以下)
					実 績		未達成	○小学校 7科目中5科目で達成 ○中学校 6科目中5科目で達成	正答率30%未満の割合 ○小学校3年 国語:18.4% 算数: 0 % ○小学校4年 算数: 0% ○小学校5年 国語:14.8% 算数: 2.1% 理科: 4.2% ○小学校6年 算数: 0 % ○中学校1年 数学:34.9% ○中学校2年 国語: 2.3% 数学: 6.9% 理科:30.2% 社会: 6.9% 英語: 9.3%	
進捗状況説明		平成29年2月に行われた県到達度調査において、村学力向上推進委員会の達成目標である正答率30%未満の児童生徒の割合を小学校で10%以下、中学校で30%以下にする」という数値目標を小3(算数0%)、小4(算数0%)、小5(理科4.2%,算数2.1%)、小6(算数0%)、中2(国語2.3%、社会6.9%、数学6.9%、英語9.3%)で達成できた。また、達成できなかった要因として小学校の場合、学力の低い子への補習等の学習支援を行っているが学習の定着が出来ていないことや、粘り強く問題を解くための活動が弱かったことが要因と考えられる。中学校においては、中間層の生徒引き上げるための努力や、日常の授業の中できめ細かな指導がたりなかったと思われる。								

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	●沖縄県は過去全国学力テストにおいて、近年は小学校で飛躍的に学力の底上げがなされてきている。しかし中学校においてはまだ厳しい状況にある。そのため児童生徒1人1人に「確かな学力」を身につけさせる必要がある。 ●支援員12名を確保するために、県内の大学を回り、支援員希望者の募集を早めにかけているが人材の確保に苦慮している。今年度においては年度当初から12名の支援員を確保できず、教員資格のない者を支援員ヘルパーとして採用しながら人材確保に努めた。 ●村外からの支援員を採用する場合は宿舍の確保が必要であることから、村内出身者で教員免許保持者がいる場合は積極的に採用する。 ●児童生徒の個々の段階に応じた適切な学習指導ができるよう、支援員の研修を充実させる必要がある。	●人材確保に向け、現在雇用されている支援員に引き続き継続雇用が可能か早期に確認を行う。 ●村外出身者の支援員のために宿舍の確保に努める。 ●教員採用試験に向けて指導主事を中心に勉強会を開いたりするなど、定期的に支援員のスキルアップに取り組んでいる。
今後の取り組み方針		
●「確かな学力」を身に付けさせるために、継続的に事業実施を図っていく。 ●支援員の継続雇用が次年度も可能か1月中には把握し、人員不足が予想される場合は県内大学へ支援員希望者の広報活動を行い人材確保につとめる。また、宿舍不足解消のためにも、村出身者の支援員の確保に努めたい。 ●支援員の指導力の向上を図るため、指導主事を中心に学習指導法などの研修を定期的実施する。 ●県学力到達度調査において、正答率30%未満の児童生徒の割合を小学校で10%以下、中学校で30%以下を全科目において達成できるようにする。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>19,590</td><td>19,590</td><td>15,672</td><td>3,918</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 19,590千円 賃金 (伊江小学校支援員:4人) 6,245千円 賃金 (西小学校支援員:4人) 6,770千円 賃金 (伊江中学校支援員:4人) 6,575千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	19,590	19,590	15,672	3,918	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
19,590	19,590	15,672	3,918	0										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の選定は有資格者を中心に選考し適正に選定した。 ○12名の支援員を確保することができた。予算規模において適正に処理することができた。 ○使途について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-②	各種大会派遣費助成事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－(2)－ア			
				教育機会の拡充			
担当部課名	教育委員会(B&G海洋センター)	事業実施 (予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(1)		
事業内容	本村の児童生徒のスポーツ、文化活動等において、地区大会や県大会等への派遣旅費について助成する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	4,283	4,800	4,550	3,700	
		(b)予算現額	3,859	6,288	3,917	3,671	
		(c)増減額(b-a)	▲ 424	1,488	▲ 633	▲ 29	
		(d)繰越額	—				
		A. 計(b+d)	3,859	6,288	3,917	3,671	
	B. 執行済額		3,859	3	3,917	3,671	
	うち交付金充当額		2,800	3	3,133	2,936	
	次年度繰越額						
	執行率(％)(B/A)		100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	
	予算の状況の説明		派遣費事業総額及び派遣人数は減少しているが、県内離島や県外派遣が多くあり対象外経費が多く、交付金対象経費は前年度実績を下回る結果となったが補助金対象者に対しては計画どおりに執行できた。				
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	各種大会派遣費の助成	目 標	(派遣費の助成)	(派遣費の助成)	(派遣費の助成)	(派遣費の助成)	
		実 績	助成実施	助成実施	助成実施	助成実施	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成 状況 説明	児童・生徒の競技力の向上とともに、国頭地区代表や、県代表に選出される児童生徒が多く前年度及び当初目標数より大幅な増加となった。 中学生県外派遣 16名 中学生県大会派遣 20名(県内離島18人) 小学生県外派遣 12名 小学生県大会派遣 2名(県内離島)						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (33年度)
	各種大会派遣費の助成:1,000人	目 標	()	(680人)	(1,000人)	(1,000人)	()
		実 績		1,966人	2,404人	2,029人	
	【参考指標】 (今後の展開) 派遣人数(累計) H33年度:10,000人	目 標	()	()	()	()	(10,000人)
		実 績					
	進 捗 状 況 説 明	地区大会参加のみならず、地区代表や県代表として多くの大会へ参加し、様々な環境で活動を行うことにより、たくましく生き抜く力の土台や、競技力の向上、豊かな人間形成の向上につながった。 近年の助成件数は成果目標値を大きく上回っており、村全体で子供たちの競技力向上に努めた効果が発現されつつあることから、今後も継続して助成人数が増えるよう取り組んでいく。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・児童生徒の競技力向上に伴い、地区代表・県代表として派遣されることになり、渡航費の半額は助成対象となり負担軽減となっている。 ・県内離島や県外では日帰りが不可能なため宿泊代が負担となっている。 ・競技力の向上に伴い、指導者能力の向上も必要である。	・今後も離島の地理的な条件不利性を克服するために、渡航費の半額助成を継続して実施していく。 ・県内離島や県外派遣が決定した場合に、早期に宿泊スケジュールを調整することによって、前広な交通手段の確保によって宿泊経費等がより安価に確保できることを利用者へ周知を図っていく。 ・指導者講習会等により、競技力の向上、指導者能力の向上を目指す。
今後の取り組み方針		
派遣の実績が増えることによって児童生徒の競技能力の向上が図られた。さらには、中学校卒業後の自立へ向けて心身ともに成長でき、家庭への負担も軽減される。 今後は離島の経済的負担等を克服し、離島の地理的条件のハンディが克服できるよう継続して派遣する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>8,322</td><td>3,671</td><td>2,936</td><td>735</td><td>4,651</td></tr></table> 伊江村 3, 671 千円 補助金 3, 671 千円 伊江村スポーツ少年団 1, 568千円 ほか、個人負担分(交付対象外経費) 1,543千円 伊江中学校 2, 102千円 ほか、個人負担分(交付対象外経費) 3,108千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,322	3,671	2,936	735	4,651
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,322	3,671	2,936	735	4,651										
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金交付要綱等に照らし合わせ、補助対象者を適正に選定した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助対象者を適正に選定しており、予算規模は適正であったと考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金交付要綱等に基づき受益者負担を行っており妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○使途について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											

市町村名		伊江村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		7-①	伊江村型就業意識向上支援事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章-3-(10)-カ		
担当部課名		教育行政課	事業実施 (予定)年度	平成28～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所		沖縄県産業・雇用拡大県民運動の推進		
事業内容		中学を卒業と同時に親元を離れ、島から旅立つ子ども達の為に早い段階からジョブシャドウイングや職業人講話卒業生トークライブをとおして将来の夢や目標、自立に向けた自己イメージの習得やキャリア教育と就業意識向上を図る。							
実施方法		■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
		予算 の 状 況	(a)当初予算額	3,993					
			(b)予算現額	3,392					
			(c)増減額(b-a)	▲ 601					
			(d)繰越額	—					
			A. 計(b+d)	3,392					
		B. 執行済額		3,392					
		うち交付金充当額		2,713					
		次年度繰越額							
		執行率(％)(B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		当初予算に対象外経費が含まれていたため、減額となっているが、計画通りに事業を執行できた。							
活動目標 (指標) 及び達成状況		H28活動目標(指標)		達成状況					
					28年度	29年度	30年度	31年度	
		企業訪問・体験開催	目 標	(訪問・体験開催)	()	()	()	()	
			実 績	訪問・体験の実施					
		職業人講話開催	目 標	(講話の開催)	()	()	()	()	
			実 績	講話の開催実施					
		卒業生による進路講話開催	目 標	(進路講話開催)	()	()	()	()	
			実 績	進路講話の開催実施					
		達成 状況 説明	・小学生では事前学習から始まりジョブシャドウイング事後学習、発表会まで行い村内で見える事の出来ない職業を体感する事が出来た。 ・中学校では全校生徒を対象に村出身者のさまざまな職種の方を招き中学卒業から今の仕事につくまでの経過や心境を聞くことができた。 ・高校3年生を講師として高校生活に必要な事、これからの目標、一人暮らしの体験などを聞くことができた。						
		成果目標 (指標) 及び進捗状況		H28成果目標(指標)			基準値 (年度)	28年度	29年度
小学生・中学生170名を対象に 企業訪問実施(小学生)	目 標			()	(企業訪問実 施)	()	()	()	()
	実 績				企業訪問の実施完了				
職場体験実施(中2)	目 標			()	(職場体験)	()	()	()	()
	実 績				職場体験実施				
職業人講話実施(中1)	目 標			()	(職業人講話)	()	()	()	()
	実 績				講話実施				
卒業生による進路講話実施(中3)	目 標			()	(進路講話実 施)	()	()	()	()
	実 績				講話の実施				
進 捗 状 況 説 明	・全児童を対象に事前・事後学習を行い、村外でのジョブシャドウイングを実施し、村内で見える事の出来ない職業を体験する事ができた。 ・全中学生を対象に村内在住の方や村外で活躍する村内出身者を講師として、中学を卒業後どのように現在の職業に就いたか過程や体験談をとおしてどのように目標を探していくか等、中学校生活や進路選択について講話を実施した。(講話内容:【中1①職業や産業などの理解、②将来へのビジョンを持つきっかけ、③地域のみりよくの再発見について】【中2①ビジネスマナー、②ビジネスマナーが働く場所でのように繋がっているか、③相手を思いやる気持ちや感謝の気持ちを持つことの大切さ】【中3①卒業して経験したこと、観じたこと、②中学生のうちにやっておかなければならないこと、進路決定に向けてやるべきこと】) ・高校3年生2名を講師として中学生を対象に高校生活に必要な事、一人暮らしの大変さ、今後の目標設定等の講話を実施した。								

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・小学生のジョブシャドウイング時の受け入れ先企業について、対象者の希望を満たせない時もあり、更なる企業開拓が必要である。 ・中学校では村内事業者で職場体験を行っているが、受け入れ事業者に限りがあり、こちらも事業者の開拓及び受け入れ事業者への趣旨説明が必要である。 ・新規受け入れ事業者を開拓する際に「キャリア教育の重要性」をお伝え致し、職場体験の実施により、受け入れ事業所の人材育成、地域貢献にも繋がることをお伝え、本事業の取組の理解を深めることによって受け入れ事業者数の増加につなげていく。	・ジョブシャドウイングの企業開拓については、本島内で活躍する村出身者へ協力を得ながら企業開拓を行う。 ・村内にある人材バンク及び保護者の協力のもと事業への声掛けを行い開拓に努める。 ・受け入れ先事業者への説明会を実施し、主旨及び受け入れ時の対応等を事前に行うことにより、事業者の負担軽減に努め、更なる新規受け入れ事業者の開拓に繋げる。
今後の取り組み方針		
・子ども達の意識向上及び目標、今後のなりたい職業など、事前と事後の意識調査を実施し、成果の確認を行うことで、より効果的な事業実施に努めていく。 - また、子ども達の意識調査の結果等を参考に可能な限り、子ども達のなりたい職業分野の職場体験が実現できるように取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr><tr><td>3,392</td><td>3,392</td><td>2,713</td><td>679</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	3,392	3,392	2,713	679	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
3,392	3,392	2,713	679	0										
伊江村 3,392千円 旅費 68千円 （ジョブシャドウ等に係る旅費） 委託料 3,119千円 株式会社 ケイオーパートナーズ 3,119千円 （伊江村就学意識向上支援事業委託） 使用料及び賃借料 205千円 （ジョブシャドウ等に係る 車両借り上げ料等）														
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託料についてはプロパーザルを行い業者を選定しており、妥当である。 ○予算規模は対象外経費分が減額となったが、全ての事業を執行しており、適正である。 ○精算時に検査を実施しており、目的に即た必要なものであった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		伊江村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		8-①		伊江村文化保存発信事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(6)－イ		
担当部課名		生涯学習課		事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域づくりを担う人材の育成		
事業内容		国の重要無形民俗文化財に指定されている「伊江島の村踊」をコミュニケーションツールとして村外公演を行い、地域内のみで行われている文化を情報発信・情報共有を図っていく。併せてこれまで保存継承してきた民俗芸能の歩みを発刊し後世へつなげ、島歌や島の伝統文化の基層となっている島言葉(しまふとぅば)の保存継承を目的に方言ことわざ・慣用句集を発刊し、ふるさと教育や地域言語の関心につなげ地域の独特な文化を発信していく。物産フェアを開催し伊江島の魅力を発信する。							
実施方法		■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度		
		予算の状況	(a)当初予算額	11,600					
			(b)予算現額	12,600					
			(c)増減額(b-a)	1,000					
			(d)繰越額	－					
			A. 計(b+d)	12,600					
		B. 執行済額		12,213					
		うち交付金充当額		9,770					
		次年度繰越額							
		執行率(%) (B/A)		96.9%					
予算の状況の説明		当初予算額では、11,600(千円)であったが、委託料の設計費精査の結果、当初の見込みと比較し1,000(千円)の増額を行った。事業内容は計画通り執行した。							
活動目標(指標)及び達成状況		H28活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度		
		沖縄タイムスホール 358席×昼・夜2回公演	目 標	(2回公演実施)	()	()	()		
			実 績	2回公演の実施完了					
		伊江村民俗芸能の歩み作製	目 標	(歩みの作製)	()	()	()		
			実 績	作製完了					
		伊江島の方言ことわざ・慣用句集作製	目 標	(慣用句集等作製)	()	()	()		
			実 績	作製完了					
		達成状況説明	「伊江島の村踊」の保存・継承の歩みを1冊にした「伊江村民俗芸能保存会結成40周年記念誌」の刊行、伊江島の方言を活用した方言絵本「伊江島の民話」の刊行を行い、児童生徒へのふるさと教育への材料を提供できた。 また、那覇市内にて伊江島の物産や文化等が一堂に介して行われた沖縄タイムスホールでのイベントでは、3日間で7, 772名が来場し多くの方々に島の文化発信及び観光PRの周知ができた。						
		成果目標(指標)及び進捗状況		H28成果目標(指標)			基準値(年度)	28年度	29年度
沖縄タイムスホール 358席(昼・夜2回公演)満席	目 標			()	(358席満席)	()	()	()	
	実 績				358席満席				
伊江村民俗芸能の歩み作成(150部)	目 標			()	(150部作製)	()	()	()	
	実 績				作製完了				
伊江島の方言ことわざ・慣用句集作成(150部)	目 標			()	(150部作製)	()	()	()	
	実 績				作製完了				
進捗状況説明	・村踊村外公演・物産フェア:来場者7, 772名 ・方言絵本「伊江島の民話」 150部刊行 ・伊江村民俗芸能保存 150部刊行								

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・村外公演では時間の都合上、大人数の宿泊が必要となり、宿泊先の確保に苦慮したことや、公演の参加者選定に時間を要した。 ・本村は離島であるため、村外でしか事前入場券を受け取れない者について、公演の入場券の事前受け渡しに時間を要する場合があった。 ・近年の核家族化、若者と年配者などとの接する機会が減り、伝統芸能に親しむ機会や、日頃から方言を使って会話をする機会が減っていつている。	・村外公演については、参加者の選定を早期に実施し、宿泊先の確保が確実に実施できるように取り組む。 ・公演の入場券の受け取り等をコンビニなどで実施できないか等の検討を行う。 ・方言の保存継承として、地域の方々にも読み聞かせなどで、活用していただき、その後、会話や言い回しなどの方言学習など生涯学習へ繋がる様に検証していく。
今後の取り組み方針		
・引き続き、児童生徒に対しては、島に愛着と誇りを持ち、将来地域に貢献できる人材へ育つように、文化などを通してふるさと教育を推進していく。 また、国指定の伊江島の村踊公演も引き続き、積極的に村外公演を行い、発信と交流を図っていく。 ・早期の宿泊先の確保を図るべく、旅行者選定を早期着手するほか、公演の入場券のコンビニ受取り等については、必要経費などにも留意しつつ事業効果が効果的に発現できるように取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>12,213</td><td>12,213</td><td>9,770</td><td>2,443</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 12,213千円 委託料 6,100千円 株式会社 サン・エージェンシー 6,100千円 伊江村PR委託業務(イベント運営) 事務費 6,113千円 株式会社 ちとせ印刷 4,752千円 民俗芸能保存記念誌の印刷製本 有限会社 サン・エス 1,361千円 伊江島の民話(絵本)の印刷製本					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	12,213	12,213	9,770	2,443	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
12,213	12,213	9,770	2,443	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託費については指名競争入札を行い業者を選定しており、妥当である。 ○入札残による不用額はあったが、事業年度に見合った予算規模で適正であったと考える。 ○精算時に検査を実施しており、目的に即た必要なものであった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村							
平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	9－①	沖縄らしい風景づくり推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(6)－(ア)		
					沖縄らしい風景づくり			
担当部課名	政策調整室	事業実施(予定)年度	平成27～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(1)			
事業内容	平成27年度において景観法に基づく景観計画の素案を策定しており、その計画を基に景観計画の原案及び条例を制定することで、伊江村らしい風景を保全・継承・創出するものとする。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（　）							
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,000	8,000				
		(b) 予算現額	6,912	7,506				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,088	▲ 494				
		(d) 繰越額	－	－				
		A. 計 (b+d)	6,912	7,506				
	B. 執行済額		6,912	7,506				
	うち交付金充当額		5,529,000	6,004				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%				
予算の状況の説明		当初予算額では、8,000(千円)であったが、増減額の▲494(千円)については入札残によるもの。事業内容は計画通り執行した。						
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況					
				27年度	28年度	29年度	30年度	
	・景観計画(原案)の検討	目 標	(　　　　　)	(検 討)	(　　　　　)	(　　　　　)		
		実 績		実施				
	・景観条例の検討	目 標	(　　　　　)	(検 討)	(　　　　　)	(　　　　　)		
		実 績		実施				
	・景観計画策定協議会の実施等	目 標	(　　　　　)	(3回)	(　　　　　)	(　　　　　)		
		実 績		3回				
	H27活動目標（指標）							
	・現地調査(H27活動目標)	目 標	(調 査)	(　　　　　)	(　　　　　)	(　　　　　)		
		実 績	実施					
	・上位関連計画の整理(H27活動目標)	目 標	(整 理)	(　　　　　)	(　　　　　)	(　　　　　)		
		実 績	実施					
	・景観構造、景観特性の把握(H27活動目標)	目 標	(把 握)	(　　　　　)	(　　　　　)	(　　　　　)		
		実 績	実施					
	・アンケート調査(H27活動目標)	目 標	(1回)	(　　　　　)	(　　　　　)	(　　　　　)		
		実 績	1回					
	・ワークショップ(H27活動目標)	目 標	(3回)	(　　　　　)	(　　　　　)	(　　　　　)		
		実 績	3回					
	・景観計画(素案)の検討(H27活動目標)	目 標	(検 討)	(　　　　　)	(　　　　　)	(　　　　　)		
実 績		実施						
達成状況説明	・景観計画(原案)の検討については、平成27年度に策定した素案をもとに、①良好な景観形成のための行為の制限に関する事項、②景観重要建造物又は景観重要樹木の指定の方針、③屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限、④良好な景観形成のための推進体制について検討、設定を行った。 ・景観条例の検討については、景観計画の検討を行いながら、上記の制限事項等をまとめ条例(案)の策定を行った。 ・景観計画策定協議会の実施等については、目標どおり3回実施し、景観計画の検討、設定を行った。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）			基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）
	景観計画(原案)の策定	目 標	(　　　　　)	(策 定)	(　　　　　)	(　　　　　)	(　　　　　)	
		実 績		策定済				
	景観計画概要版の策定	目 標	(　　　　　)	(策 定)	(　　　　　)	(　　　　　)	(　　　　　)	
		実 績		策定済				
	景観条例の制定	目 標	(　　　　　)	(策 定)	(　　　　　)	(　　　　　)	(　　　　　)	
		実 績		策定済				
	届け出等の基準選定	目 標	(　　　　　)	(策 定)	(　　　　　)	(　　　　　)	(　　　　　)	
		実 績		策定済				
	進捗状況説明	・景観計画(原案)の策定、景観計画概要版の策定、届け出等の基準選定については、平成27年度に策定した景観計画(素案)をもとに、目標どおり策定及び選定することができた。 ・景観条例の制定については、届出等の基準選定等をふまえ、景観計画(原案)を策定した後、制定することが望ましいと判断し、平成29年度において制定する予定である。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・伊江村景観条例の制定・施行に伴い、一定規模の建物等の建築または改築を行う場合には、今後、景観法及び同条例に基づき、村に届出が必要となる。なお、本事業で策定した景観計画(原案)は、同法・同条例で定める届出対象行為に該当する行為を行う際に厳守すべき基準(景観形成基準)等を定めていることから、同計画を運用していくことが必要となる。そのため、村民・事業者等に対して、同計画の周知・啓発活動を行っていく必要がある。	・今後、景観施策を推進していくためにも、村民・事業者等に対して景観計画(原案)の周知・啓発活動を行い、伊江村らしい景観づくりを村民・行政とともに協働して取り組んでいくため、推進体制の整備を図る。
	今後の取り組み方針	
・本事業において策定した景観計画(原案)をもとに、届出制度の運用や本村の特徴を活かした良好な景観形成を図る。そのためにも、策定した景観計画(原案)を村のホームページや広報誌、防災無線等、あらゆる媒体を活用し、村民や事業者、観光客に周知し、伊江村らしい風景を後世に残すとともに、観光振興の促進に寄与する伊江村らしい風景づくりを継続して行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>7,506</td><td>7,506</td><td>6,004</td><td>1,502</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 7,506千円 委託料 7,506千円 パシフィックコンサルタンツ(株) 7,506千円 沖縄らしい風景づくり推進事業 (伊江村景観計画策定業務)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,506	7,506	6,004	1,502	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,506	7,506	6,004	1,502	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、設計書をもとに予定価格を設定し執行していることから妥当であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、委託費として妥当なものであったと判断した。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	10－①	医療保健センター機能拡充事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	3章－3－(11)－イ		
	担当部課名	医療保健課	事業実施 (予定)年度	平成27～28年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上	
事業内容		医療保健センター内で運営する村立診療所と歯科医院は島内唯一の医療機関として村民の医療を担っている。1日当たりの平均外来患者数は診療所で104人、歯科医院が35人である。同施設では乳幼児の集団予防接種を年間90日実施し慢性的な駐車場不足が生じ、村民への医療提供に大きな支障をきたしている。駐車場を確保整備することにより安心・安全な医療保健サービスの提供を図る。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	21,000	21,000				
		(b)予算現額	19,442	17,496				
		(c)増減額(b-a)	▲ 1,558	▲ 3,504				
		(d)繰越額	—	—				
		A. 計(b+d)	19,442	17,496				
	B. 執行済額		19,442	17,496				
	うち交付金充当額		15,554	13,996				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率(％)(B/A)		100.0%	100.0%				
予算の状況の説明		当初見積り時には、予算額(21,000千円)であったが、不用額(3,504千円)については入札残によるものである。事業内容は、計画通り施行した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)			達成状況				
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	駐車場舗装工事(1,111㎡)	目 標	(1,111㎡)	()	()	()		
		実 績	1,111㎡					
達成 状 況 説 明	当初の計画通りアスファルト舗装を行い、利用者や近隣住民の安全確保のため、排水などの施設整備をそなえたアスファルト舗装の駐車場整備を実施した。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	医療保健センターの駐車場を整備することにより交通手段の不安を解消し利用者の利便性の拡充が図られる。	目 標	()	(用地確保)	駐車場整備		()	
		実 績		用地取得	駐車場整備完了			
		目 標	()				()	
		実 績						
	進 捗 状 況 説 明	駐車場整備 前年度取得した用地をアスファルト舗装や駐車場の周りに安全策の設置、泥水などの排水問題を解消した。 区画整備し、効率よく車を駐車できるようにした。(駐車可能28台から40台に増)						

	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	昨年度用地を取得したが、舗装されておらず足元が不安定であった。また、区画整理されておらず非効率的な駐車をしていたので、スペースが限られていた。さらに、雨が降った際には水たまりができ利用者が使用しにくい現状や、泥水が流出する等の問題が浮上した。 ・今回アスファルト舗装を行い、利用者の足元の不安をなくすだけでなく、雨による泥水の流出を防ぐことができ、景観、環境に影響を及ぼさないようにすることができた。 ・測量を行い、効率的に車両が駐車できるように取り組んだ結果、駐車可能台数が増加することができた。 ・柵を設置し地域住民や、利用者の安全を画することができた。	・当該事業で整備した駐車場について住民の認識が不十分である。 ・住宅街に設置されているため、駐車場内の安全な利用を促す必要がある。
	今後の取り組み方針	
駐車場の利用促進に繋げるため、位置案内をする看板設置や、診療所内において新設された駐車場の案内を行うなど、より地域住民への周知徹底を行い、駐車場内での安全な利用を促す。 また、住宅街に設置されている為、徐行を行うように、看板等で注意喚起を行っていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>17,496</td><td>17,496</td><td>13,996</td><td>3,500</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	17,496	17,496	13,996	3,500	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
17,496	17,496	13,996	3,500	0										
伊江村 17,496千円 委託料 (4,320千円) 城島測量設計 (3,132千円) 城島測量設計 (1,188千円) 工事請負費 (13,176千円) 島幸建設(株) (13,176千円) 医療保険センター駐車場 整備実施設計業務 医療保健センター駐車場 整備工事現場技術業務 医療保健センター駐車場 整備工事														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○入札残による不用額はあったが、事業年度に見合った予算規模で適正であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											

市町村名	伊江村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	11-①	世界のイージマンチュ交流招聘事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－4－(1)－ア			
担当部課名	総務課	事業実施 (予定)年度	平成27～28年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な 交流の推進			
事業内容	戦前戦後を通して南米をはじめ世界各国に移住したイージマンチュ(伊江島の人々)やその子弟とのネットワークを強固にするため、各国に居住する幅広いイージマンチュを伊江村に招聘し「世界のイージマンチュ交流会」を開催して友好親善を図る。							
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()							
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	7,000	4,200				
		(b)予算現額	6,000	1,158				
		(c)増減額(b-a)	▲ 1,000	▲ 3,042				
		(d)繰越額	—	—				
		A. 計(b+d)	6,000	1,158				
	B. 執行済額		5,439	1,158				
	うち交付金充当額		4,251	926				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率(%) (B/A)		90.7%	100.0%				
予算の状況の説明		本事業において、渡航費及び宿泊費の補助を目的とした交付要綱に基づき、海外から参加したイージマンチュの方々へ補助し事業の充実化を図ることができた。また、参加者の中に補助対象者がいたものの、補助申請において本人からの辞退があり、計画と実績の人数が変動し減額が発生したが、交付要綱により6名には正当に補助することができた。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	交流招聘15人	目 標	(15)	()	()			
		実 績	6					
	村民参加型の交流会の開催	目 標	(交流会の開催)	()	()			
		実 績	交流会の開催完了					
	子どもたちを対象にした国際交流授業の開催	目 標	(国際交流授業の開催)	()	()			
		実 績	授業の開催完了					
	達成状況説明	渡航費及び宿泊費の補助を目的とした交付要綱に基づき、海外から参加したイージマンチュの方々へ補助し事業の充実化を図ることができた。また、参加者の中に補助対象者がいたものの補助申請において本人からの辞退があり、実績として6名に正当に補助することができた。 世界各国で活躍する1世から4世までの幅広いイージマンチュを本村へ招聘し、小学生から老人会までの世代と交流をすることで、親睦を深めることができた。また、交流会を実施し村民やイージマンチュとのネットワーク及び絆をより強固にすることができた。 小学生や中学生を対象とした国際交流授業で、参加者の国々の紹介や言語等を授業し、児童生徒の興味関心を引き出すことができ、人材育成を図ることができた。						
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)			基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度
各国で活躍するイージマンチュが数十年ぶりに古里へ帰郷し、村民と交流・親睦を深めることで絆をより強固にする。また報告書を作成し今後の交流の一助とする。		目 標	()	(報告書 作製)	()			()
		実 績		報告書 作製完了				
		目 標	()	(村民との交 流・親睦を)	()	()	()	
		実 績		村民との交流・親 睦を深めた				
進捗状況説明		世界のイージマンチュ交流会を開催し、総勢200名余が参加し、交流・親睦を図り絆を強固にすることができた。また、事業報告書を作成し、公共施設や学校等に配布し、南米への興味・関心をもってもらうことで、人材育成や今後の交流の一助とすることができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	世界各国で活躍する1世から4世までの幅広いイージマンチュを本村へ招聘し、世代間の交流や国際交流授業を実施し、有意義な事業の実施ができた。しかし、各国において村人会等がなく、平成27年度に実施した世界のイージマンチュ交流派遣事業で得たネットワークを通じて、各国の方々に連絡したが、連絡がとれない場合が多く事務調整に時間を要し若干遅れることもあった。	派遣事業や他の海外子弟受入等で得た国際交流のネットワークをより充実させるとともに、村人会の結成を促進し、村人会を通して事務調整や連絡を行うことで、事務調整が遅れることのないよう、事業効率化等の更なる充実を図る。
今後の取り組み方針		
本村では、平成27年度に南米（ブラジル・アルゼンチン・ボリビア）へ派遣する交流派遣事業を実施し、平成28年度には5年に一度開催される世界のウチナーンチュ大会に合わせ、世界のイージマンチュを本村へ招聘し、村民や関係者等との交流会や国際授業等を実施した。 今後においても派遣や招聘の相互交流事業を年次的に展開し、世界のイージマンチュが居住する南米を中心に中学生から青年の年代を派遣し、ホームステイを通して現地の文化や歴史、移民の歴史等を学び人材育成を図る。また、招聘事業では、世界各国に居住するイージマンチュを本村へ招聘し、同年代同士の交流や小中学生等を対象とした各国の現状や歴史などをテーマに国際交流授業を実施し、児童生徒が海外に対し関心や興味をもってもらうことで、将来伊江村と諸外国との架け橋となれるよう人材育成を図る。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>1,655</td><td>1,158</td><td>926</td><td>232</td><td>497</td></tr></table> 伊江村 1,158千円 需用費 149千円 （株）ちとせ印刷 事業報告書 （印刷製本費） 使用料及び賃借料 65千円 （株）伊江島観光バス 沖縄営業所 バス借上料 補助金 944千円 世界のイージマンチュ参加 者への補助金（6名） 参加者負担分（交付対象外経費） 497千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,655	1,158	926	232	497
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,655	1,158	926	232	497										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○村の契約規則の規定により業者を選定しており、妥当であったと考える。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。										
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		○受益者である交流会参加者は、交付要綱により一部負担しており、他の事業と負担割合から判断しても妥当であった。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目・使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。										

市町村名	伊江村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	12-①	伊江村アジア野菜導入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ウ		
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成27～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化		
事業内容	平成27年度調査で栽培マニュアルを整理した品目を農家に普及する為には、肥培管理、施設管理、収穫及び出荷面積等の栽培指針の確立が必要となることから、気象条件に左右されない耐風強化ハウスでモデル栽培を行う。また、モデル栽培で生産したアジア野菜の一次加工、二次加工品のレシピ研究を兼ねた販売先との調査を継続し、事業化の連携体制を構築する。							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	22,000					
		(b)予算現額	22,000					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	—					
		A. 計(b+d)	22,000					
	B. 執行済額		19,704					
	うち交付金充当額		15,763					
	次年度繰越額		0					
	執行率(％)(B/A)		89.6%					
予算の状況の説明		不用額(2,280千円)については強化型パイプハウス設置工事の入札残である。 委託業務においては公募型プロポーザル方式で受託業者を選定し、予算の範囲内で事業提案内容通りに適正に執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)			達成状況				
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	新規農作物導入モデル展示園の設置及びモデル栽培の実施	目 標	(展示園を設置 モデル栽培を実施)	()	()	()	()	
		実 績	展示園を設置済 モデル栽培を実施済					
	生産販売調査業務	目 標	(物流・商流の構築 加工品の商品設計)	()	()	()	()	
		実 績	物流・商流を構築済 加工品を商品設計済					
	達成状況説明	・気象条件に左右されない強化型パイプハウスを設置し、先行栽培3品目(青パパイヤ、ガパオ、ホーラパー)の試験栽培を行った。栽培マニュアルに従い、露地とハウス内での栽培を比較し、肥培管理や出荷養生を通して連携する外食チェーンに試験出荷をして品質と食味の評価を行った。また、種苗の調達・連携、病虫害防除の手法整理、委託農家への栽培・出荷指導などを実施した。 ・調査業務においては青果の出荷・販売計画の作成し、加工品を含めた販売先の最終整理を行った。また、加工商品の企画・レシピ開発を通して加工品の商流と売買条件、試験製造を行った。						
	成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)			基準値(年度)	28年度	29年度	30年度
モデル栽培野菜の栽培指針の確立		目 標	()	(栽培指針の確立)	()	()	()	()
		実 績		栽培指針を確立済				
新たな品目として3品目程度追加選定し、栽培マニュアルの更新		目 標	()	(栽培マニュアルの更新)	()	()	()	()
		実 績		栽培マニュアルを更新済				
モデル栽培で生産したアジア野菜の概要整理		目 標	()	(モデル栽培の概要整理)	()	()	()	()
		実 績		モデル栽培の概要整理済				
進捗状況説明		・強化型パイプハウスでの栽培試験を通じて、肥培管理の手法や生育状況を確認し、露地栽培との比較を検討することができた。 ・新規栽培作物として、コリアンダー(パクチー)の中国産種を除く改良新品種から6品種を試験栽培し、優良品種を選抜した。また、夏場の県内野菜の需要を考え、高騰したキャベツの代わりにカイラン菜(中国キャベツ)とタイセロリを選択し、試験栽培を通して栽培マニュアルを整理した。 ・モデル栽培で生産した先行品目や新規栽培作物において、栽培計画や経営指標を整理し、県内外への物流や商流を構築することができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・生産体制に関して、夏場の高温期の肥培管理方法と、降雨の際の収穫出荷の対応など課題が残る。また、一部の品種で病気感染の恐れがあるため、適正な農薬の選定や散布を行う必要がある。 ・販路が構築されたものの、生産量や体制を確固たるものにするためには、本格的に耕作地や生産者を増やす必要がある。加工商品の開発については、初期段階であるため、時間をかけて商品化にする必要がある。 ・村内にある堆肥センターや地下ダムの農業用水を活用して、気候・土壌特性を活かしたアジアン野菜を栽培することで伊江島産のイメージブランドを展開し、新規就農者の支援や雇用を創出する必要がある。	・品目ごとの肥培管理法を整理し、試験栽培では病害虫の対応策を整理した。青果の物流については最短かつ低価格の配送形態を構築し、出荷養生の荷姿や条件の整理を行った。 ・県外の外食チェーンや県内のスーパー等の販路の取引が可能となり、出口の見た流通経路を構築することができた。また、加工商品の企画と試験製造を行い、新たな商品開発に取り組んだ。 ・今後、段階的に使用できる地下ダムの農業用水で選定品目の栽培を行い、かん水作業の労力低減などを確認する必要がある。また、島出身の若者たちが島に戻り、栽培に従事する雇用の場の創出に努める。
今後の取り組み方針		
・強化型パイプハウスでは選定品目を主体に試験栽培を継続し、安定的に生産・出荷できる体制を構築する。 ・村の新規作物としてアジアン野菜を推進し、生産農家の育成や生産拡大を図り、今後は村内で受発注業務を行う幹事会社の誘致を行う予定である。また、青果の余剰や規格外の青果を使用した加工商品の開発も継続して行い、村の新たな特産品として取り組む。 ・新規就農者も募りながら村内の障がい者施設や高齢化した生産農家と連携し、生産・出荷の支援や摘蕾、梱包作業などが行えるように取り組む。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>19,704</td><td>19,704</td><td>15,763</td><td>3,941</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 19,704千円 委託料 9,984千円 株式会社ビジネスアーチ 9,984千円 工事請負費 9,720千円 福山商事株式会社 9,720千円 〔アジアン野菜生産販売調査業務〕 〔強化型パイプハウス設置工事〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	19,704	19,704	15,763	3,941	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
19,704	19,704	15,763	3,941	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は市場調査業務に精通した業者を公募型プロポーザルで募集し、適正な審査を行い、随意契約とした。工事についても指名競争入札で選定し、妥当であった。 ○予算規模は内容に即した諸経費や人件費等、工事費用が設定され、適正な規模であると考える。 ○費用や使途については事業の目的達成の観点から必要なものに限定され適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村									
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	13-①		廃油倉庫整備事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章－3－(12)－イ	
担当部課名	農林水産課			事業実施(予定)年度	平成28年度		沖縄振興基本方針該当箇所		おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備	
									Ⅲ-1-(6)	
事業内容	伊江村漁業を取り巻く環境改善の為、現在、野外にあり沖縄特有の台風等の風雨に吹きさらし状態にある廃油タンクを収納する廃油倉庫を整備する。									
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）									
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度			
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	8,000							
		(b)予算現額	6,288							
		(c)増減額(b-a)	▲ 1,712							
		(d)繰越額	－							
		A. 計(b+d)	6,288							
	B. 執行済額		6,288							
	うち交付金充当額		5,030							
	次年度繰越額		－							
	執行率(％)(B/A)		100.0%							
予算の状況の説明		実施設計時に漁港の景観等を十分に考慮したうえで、施設整備に着手し、適正な予算の執行を行った。								
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)			達成状況						
				28年度	29年度	30年度	31年度			
	漁船用廃油保管倉庫整備工事 一式	目 標	(廃油倉庫整備)	()	()	()	()			
		実 績	廃油倉庫整備完了							
		目 標	()	()	()	()	()			
		実 績								
達成状況説明	廃油倉庫の整備について、漁港の環境改善をするうえで整備する部分が増えたが、当初の目的である廃油倉庫を整備することができた。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)			基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)		
	廃油タンク周辺の環境保全及び美化(整備工事完了)	目 標	()	(整備工事)	()	()	()			
		実 績			整備工事完了					
		目 標	()	()	()	()	()			
		実 績								
	進捗状況説明	平成28年度において、廃油倉庫整備が完了したことにより、廃油の漏れ等が防ぐことができ周囲への環境が保全できた。また、倉庫を施設できることにより事故等を防ぐことができるようになった。								

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	これまで、野外に放置していた廃油が風雨に吹きさらし状態にあったことで、漁港の環境に多大な影響があったことを踏まえると、倉庫を整備したことにより環境的にも景観的にも改善されたと思われる。	今後も、漁業者の環境に対する意識を高め、廃油の管理における安全な取り扱いを徹底し、漁港の環境保全及び安全管理に努める。
今後の取り組み方針		
今後は、廃油倉庫周辺環境の更なる美化維持に努め、安心安全な漁港利用を推進していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>7,862</td><td>6,288</td><td>5,030</td><td>1,258</td><td>1,574</td></tr></table> 伊江村 6,288千円 補助金 6,288千円 伊江漁業協同組合 6,288千円 ほか、漁協負担分（交付対象外経費） 1,574千円 （有）大友設計 【委託料】 1,641千円 （有）永山建設 【工事請負費】 6,221千円 廃油倉庫設計業務 961千円 廃油倉庫工事監理業務 680千円 廃油倉庫整備工事 6,221千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,862	6,288	5,030	1,258	1,574
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,862	6,288	5,030	1,258	1,574										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○他の漁協所有の水産物加工施設に精通している伊江漁協に補助金を支出し、事業実施主体とするのが妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額が事業費の5%以内であり適正な規模であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である漁協は総事業の1割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○委託料・工事費については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											

市町村名	伊江村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	13-②	漁船管理対策事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(12)－イ				
担当部課名	農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備			
					Ⅲ-1-(6)			
事業内容	漁船の燃料費消費を抑え漁船の延命化を図り、台風時の避難対策の為、村内3カ所の漁港陸揚げ施設に漁船洗浄機をそれぞれ1基と大型の漁船陸揚台1基を購入する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	12,800					
		(b)予算現額	8,933					
		(c)増減額(b-a)	▲ 3,867					
		(d)繰越額	—					
		A. 計(b+d)	8,933					
	B. 執行済額		8,933					
	うち交付金充当額		7,146					
	次年度繰越額							
	執行率(％)(B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		漁協と十分調整したうえで、洗浄機・船台の製作に着手し、適正な予算の執行を行った。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	高圧洗浄機3機購入	目 標	(3機購入)	()	()	()		
		実 績	3機購入完了					
	陸揚用台車1基購入	目 標	(1基購入)	()	()	()		
		実 績	1基購入完了					
達成 状況 説明	漁船洗浄機・大型船船台の購入について、当初の目的を達成することができた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)	
	高圧洗浄機3機購入完了	目 標	()	(3機購入)	()	()	()	
		実 績		3機購入完了				
	陸揚用台車1基購入完了	目 標	()	(1基購入)	()	()	()	
		実 績		1基購入完了				
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進 捗 状 況 説明	漁船高圧洗浄機購入が完了し、定期的に船底等の清掃が行えるため、燃料の出費を抑えることができた。 また、陸揚用台車を購入が完了し、島内で大型漁船の管理(台風時陸揚げや修繕・船底洗浄等)できることで、漁業者の負担が軽減された。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	村内3カ所の漁港陸揚げ施設に漁船洗浄機を設置し、迅速な出漁の機会の増加とともに、漁船の延命化により、漁家の経営の安定を図る。	・高圧洗浄機活用による効果（船底洗浄による燃料の消費削減や漁船の延命化）を、漁業者に対し更に周知して、有効な活用を図っていく。
今後の取り組み方針		
今後は、漁船洗浄機と大型漁船台車を、漁業者が安全かつ有効に活用できるように利用の取り決め等を作成していきたい。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>11,167</td><td>8,933</td><td>7,146</td><td>1,787</td><td>2,234</td></tr></table> 伊江村 8,993千円 補助金 8,993千円 伊江漁業協同組合 8,933千円 （有）津島工業 11,167千円 【備品購入費】 大型漁船用台車購入 6,869千円 船底清掃用洗浄機購入 4,298千円 ほか、漁協負担分（交付対象外経費） 2,234千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	11,167	8,933	7,146	1,787	2,234
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
11,167	8,933	7,146	1,787	2,234										
資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○他の漁協所有の水産物加工施設に精通している伊江漁協に補助金を支出し、事業実施主体とするのが妥当であったと考える。 ○不用額が事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○受益者である漁協は総事業の1割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○委託料・工事費については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊江村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	13-③	養殖場機能強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(12)－イ				
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備			
					Ⅲ-1-(6)			
事業内容	村内の水産物養殖業の振興の為、養殖場にヤイトハタ等の寄生虫予防や漁具洗浄の為の給水管整備を行う。							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	19,267					
		(b)予算現額	19,267					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	—					
		A. 計(b+d)	19,267					
	B. 執行済額		19,267					
	うち交付金充当額		15,412					
	次年度繰越額							
	執行率(％)(B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		実施設計時に漁協と公営企業課(水道係)と十分調整したうえで、給水管整備に着手し、適正な予算の執行を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	給水管埋設工事の実施	目 標	(給水管埋設工事)	()	()	()		
		実 績	養殖場給水管埋設工事完了					
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成状況説明	養殖場給水管整備について、当初の目的である給水管の整備をすることができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
	給水管埋設工事の完了	目 標	()	(給水管埋設工事)	()	()	()	
		実 績		給水管埋設工事完了				
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	養殖場への給水管埋設工事が完了したことにより、養殖魚の淡水浴(寄生虫予防)や漁具(生け簀網等)の洗浄時に、漁業者の真水輸送等の労力軽減が図られた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	隣接する漁港からの真水の輸送等の改善と漁具洗浄などが養殖場にて行えることで、漁家の労力軽減を図り養殖業の活性化になる。	養殖場の今後考えられる施設整備（漁具倉庫やトイレ等の整備）において給水管を活用し、養殖業の活性化（養殖漁業者の増加等）をしていく。
今後の取り組み方針		
今後は、漁業者と漁協と連携をとりながら、給水設備の適正利用に努め、養殖場が更なる活性化を図っていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>24,084</td><td>19,267</td><td>15,412</td><td>3,855</td><td>4,817</td></tr></table> 伊江村 19,267千円 補助金 19,267千円 伊江漁業協同組合 19,267千円 ほか、漁協負担分（交付対象外経費） 4,817千円 (株)アジア技研 【委託料】 7,452千円 伊江電機工事社 【工事請負費】 16,632千円 養殖場機能強化 実施設計業務 5,184千円 養殖場機能強化 現場技術業務 2,268千円 養殖場機能強化 整備工事 16,632千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	24,084	19,267	15,412	3,855	4,817
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
24,084	19,267	15,412	3,855	4,817										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○他の漁協所有の水産物加工施設に精通している伊江漁協に補助金を支出し、事業実施主体とするのが妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額が事業費の5%以内であり適正な規模であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である漁協は総事業の1割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○委託料・工事費については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											

市町村名		伊江村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		14－①	堆肥散布強化事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－3－(12)－イ		
担当部課名		農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針 該当箇所		Ⅲ－1－(6)		
事業内容		沖縄21世紀農林水産振興計画の戦略品目で、本村は7品目(大菊・小菊・モンステラ・スプレー菊・トウガン・島ラッキョ・和牛)の拠点産地として認定を受けている。しかしその農作地のほとんどが、施設栽培や小規模耕作地であることから堆肥散布のほとんどが人力で行われており、そこで堆肥散布機を導入することにより作業軽減を行い、定時・定量・定品質の出荷を実現し市場競争力の強化を図り農家所得の向上、高品質生産の安定振興を確立し信頼されるブランド化を目指す。							
実施方法		☐ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☒ その他（備品購入）							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
		予算 の 状 況	(a)当初予算額	4,383					
			(b)予算現額	4,147					
			(c)増減額(b-a)	▲ 236					
			(d)繰越額						
			A. 計(b+d)	4,147					
		B. 執行済額		4,147					
		うち交付金充当額		3,317					
		次年度繰越額		－					
		執行率(％)(B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		村内の取扱店全4業社(1社辞退)による、指名競争入札を行い予定金額内にて落札できた。 不用額は入札残額である。							
活動目標 (指標) 及び達成状況		H28活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度		
		堆肥散布機購入(3台購入)	目 標	(3台)	()	()			
			実 績	3台購入完了					
		運搬用トレーラー購入(3台購入)	目 標	(3台)	()	()	()		
実 績	3台購入完了								
達成 状況 説明	堆肥散布機及び運搬用トレーラーを希望台数(各3台)整備導入することができ、各関係者組合からも取扱説明、試乗試運転等の依頼があり順次行った。								
成果目標 (指標) 及び進捗状況		H28成果目標(指標)			基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
		堆肥散布機購入完了(3台購入)	目 標	()	(3台)	()			()
			実 績			3台購入完了			
		運搬用トレーラー購入完了(3台購入)	目 標	()	(3台)	()			()
			実 績			3台購入完了			
			目 標	()	()	()	()	()	
			実 績						
進 捗 状 況 説 明	堆肥散布機及び運搬用トレーラー購入完了によって、利用者はまばらだが上手く散布機やトレーラーを操作し、短時間での堆肥散布が実施できており、当初の目標は達成することが出来た。 畑(土)づくりが本格的に始まる6月下旬頃から、活発に運用されるよう完熟堆肥の供給ストックや受け付け体制を整え、効率的な利用促進を図られるよう期待している。								

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	まだ、土づくり堆肥散布時期（6月～9月）をむかえていないので何とも言えない部分はあるが、試乗会・説明会などで下記の意見があった。 ①畑を踏み固められたくない。 ②これまでの作業工程を崩すのがこわい。 ③誰かが利用し結果を見てから。 など、散布機の利用に関して若干慎重になっているのが感じられた。	周知広報活動を下記のとおり行う。 利用者の有効事例等を広報掲載する。 農業普及員・各指導員への協力依頼。 関係団体及び利用者への周知広報活動。
今後の取り組み方針		
引き続き関係団体及び関係者に周知広報を行い、堆肥散布及び堆肥散布機を利用活用し作業軽減による農作業の効率化を図り定時・定量・定品質の出荷を実現し市場競争力の強化を図り農業所得の向上、農作物の安定生産を図る。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>4,147</td><td>4,147</td><td>3,317</td><td>830</td><td>0</td></tr></table> 伊江村 4, 147千円 備品購入費 4, 147千円 光オートサービス 4, 147千円 ・堆肥散布機3台 ・トレーラー3台					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,147	4,147	3,317	830	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,147	4,147	3,317	830	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村内の取扱業者（全4社）の指名競争入札で妥当であったと考えている。 ○入札による若干の不用額はあるが適正規模内だと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途に関しても検査しており適正と判断した。											